



新宿環境活動ネット15周年記念誌

ユースを育て、ユースが育てた

新宿環境活動ネット

15年のあゆみ

2003年に新宿環境活動ネットを設立してから、15年。
 2004年からはエコギャラリー新宿の指定管理者となり、
 50名以上のユースが運営に携わり、成長を遂げ、社会で活躍しています。
 新宿環境活動ネットの15年は、ユースとともに歩んだ15年とも言えます。
 ユースを育て、ユースが育てた。そんな15年間の活動の軌跡をまとめました。

編集後記

多くの皆様のご協力のお陰で、15周年記念誌を発行することができました。携わっていただいた全ての方に、心より感謝申し上げます。次回の記念誌発行は、20周年の節目でしょうか。その時には、新宿環境活動ネットや関係者の皆様がどうなっているのか、この冊子をきっかけに新たなメンバーが仲間入りしていることを期待しつつ、また笑顔で語らえる日を楽しみにしています！

NPO法人新宿環境活動ネット 理事・事務局長 飯田 貴也 (2012年度CSOラーニング生)

ユースを育て、ユースが育てた
 新宿環境活動ネット15年のあゆみ

発行日：
 2019年4月15日
 編集/発行：
 NPO法人新宿環境活動ネット
 担当：
 飯田 貴也/関 浩明/村上 黎南

〒160-0023
 東京都新宿区西新宿6-12-7-807
 TEL：03-5326-8793
 FAX：03-5326-8794
 URL：www.sean.jp/



「ありがとうございます。」

この15年を振り返ると、多くの方々への感謝の一言に尽きます。

1999年、「環境」への関心の高まりの中で、地域に根差した立場と分野を越えた連携がスタートしました。それがNPOの前身、任意団体『新宿環境情報ネットワーク』です。定期的な情報交換の中で、「市民・事業者・行政という立場や、省エネ・3R・自然共生などの分野が違うからこそできることをしよう」という機運が盛り上がりました。その時、皆の心に芽生えたのが「次世代に、エコ心を伝えたい」という想いでした。そして誕生したのが、新宿の環境学習応援団『まちの先生見本市!』であり、「エコギャラリー新宿（新宿区立環境学習情報センター）」設立を契機として2003年にNPO法人化し、指定管理者に手を挙げたのです。2004年の開館以来15年間、何度もの選定を経て、継続して「エコギャラリー新宿」の運営を続けてこられたのは、多くの皆様の想いと行動が集まったお陰と、心から感謝しております。

現在もNPOの中心事業である「エコギャラリー新宿」の運営では、持続可能性を重視した環境行動の定着に向けて、立場を越えた連携と地域密着型の運営を特徴として取り組んできました。そしてもう一つ、重要な役割を担っているのがユースの存在です。「次世代のエコ心を育む」活動が、いつしか「次世代の熱意に活かされる」活動になっており、シニア世代と共にしっかりと新しい軸になってきています。損保ジャパン日本興亜環境財団の社会貢献プログラム『CSOラーニング制度』から派遣していただいた大学生・大学院生、学芸員実習生や先輩・後輩の紹介などでつながっている学生アルバイト、『こどもエコクラブ』を修了してサポーター参加している中高生スタッフをはじめ、すでに社会人としてご活躍の方々も含めて、NPOの活動を多くのユースが支えてくれています。本当にありがとうございます。

自然災害や台風の激甚化、記録的な猛暑や大寒波など、気候変動対策や適応策の重要性をこれまで以上に肌で感じる昨今ですが、国連が経済・社会課題を含めた世界的な解決策の道筋として「SDGs（持続可能な開発目標）」を採択し、「東京2020大会」もSDGs実現への貢献を目指すと言明しています。では、私たちはどう具体化するか、NPOも真剣に取り組んでいますが、環境学習の現場に学生時代から接してきた皆様の心には、多くの想いが浮かんでいることでしょう。そのアイデアを自由に広げていただき、実現を応援するために、NPOでは2018年度に「ユース部」を設置しました。このような場を通じて、今後も地域の明日と地球の未来について対話し、共に創っていきたく願っています。



崎田 裕子
NPO法人新宿環境活動ネット 代表理事



Think Globally,
Act Locally.



CONTENTS

- ごあいさつ 1
- 「新宿環境活動ネット」団体概要／ユースの活動 2
- OB・OGスペシャル座談会「新宿環境活動ネットと私」 3
- Interview 1 「エコギャラリー新宿と歩んだ12年」（下山田 衣里さん） 4
- Interview 2 「インターン活動のリアル」（今村 彩香さん、江部 里奈さん） 6
- Interview 3 「アルバイトを経験して」（神成 はるかさん、渡邊 彩華さん） 8
- Interview 4 「新宿での経験を、社会人として活かす」（岩澤 百合香さん、久保田 拓朗さん、香月 麻由子さん） 10
- Interview 5 「新宿での経験を、研究に活かす」（箭内 茜さん、和田 恵さん） 12
- インタビューを終えて 15
- OB・OGからのメッセージ 16
- 損保ジャパン日本興亜環境財団の皆様からのメッセージ 18
- 「OB・OG会」開催レポート 19
- HISTORY — 新宿環境活動ネット15年間の軌跡 — 20
- まとめにかえて 21

「新宿環境活動ネット」団体概要

1998年に『環境活動報告シンポジウム』（主催：新宿区）で出会った仲間が、「環境活動を横につなぐネットワークがあれば、それぞれがより元気になれる!」と呼びかけ合い、1999年に『新宿環境情報ネットワーク』が誕生。それ以来、環境都市・新宿の実現に向けて、市民・企業・NPO・行政等の立場と分野を越えたゆるやかなネットワークとして歩んできました。

2003年8月に「新宿環境活動ネット」として、NPO法人化。2004年4月から「エコギャラリー新宿（新宿区立環境学習情報センター）」の指定管理者となり、持続可能な社会づくりに向けて、新宿発の環境教育・環境活動を進めています。



エコギャラリー新宿の様子

ユースの活動

新宿環境活動ネットでは、2004年度から『CSOラーニング制度』（主催：損保ジャパン日本興亜環境財団）に参加し、毎年、大学生・大学院生をインターン生として受け入れています。この他にも、CSOラーニング生の紹介などで集う学生アルバイトや学芸員実習生など、これまで50名を超えるユースがNPOの運営に参画してきました。

1

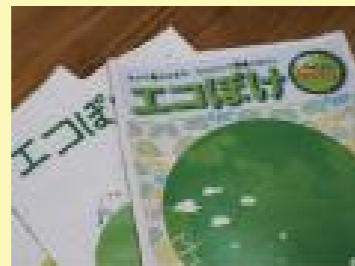
新宿の環境学習応援団
『まちの先生見本市!』



毎年1月頃、NPOが運営している教育支援ネットワーク「新宿の環境学習応援団」のメインイベントとして、区立小学校を会場に『まちの先生見本市!』を開催しています。例年60団体ほどが出展し、約1,000名の来場者を迎えるこのイベントは、歴代のユースが携わり、運営を支えています。

2

小学生向け環境教材
『エコぼけ』



2004～2013年度まで、各年のCSOラーニング生が『エコぼけ』という小学生向けの環境教材を作っていました。協賛集め、テーマ決め、記事執筆、デザイン、印刷、配布まで、一連の作業をインターン生が担い、区内の子どもたちに向けて配布することで、環境問題の啓発に貢献してきました。

3

出前授業
子ども向けワークショップ



エコギャラリー新宿では、区立小・中学校における出前授業やワークショップ（子どもエコクラブ『こどもエコ広場新宿』、夏休みこどもエコ講座『エコにトライ!』など）をコーディネートしています。2014年度以降のCSOラーニング生をはじめ、多くのユースがこども事業をサポートしています。

OB・OGスペシャル座談会

「新宿環境活動ネットと私」

現在、さまざまな分野で活躍している5組10名のOB・OGが、「新宿環境活動ネットと私」をテーマに、インターンやアルバイト時代の思い出や経験、今の仕事とのつながりなどについて語り合いました。

インタビュー

関 浩明さん
(2018年度CSOラーニング生/立教大学4年)
村上 黎南さん
(2018年度CSOラーニング生/大妻女子大学4年)
飯田 貴也
(NPO法人新宿環境活動ネット)

Interview 1



エコギャラリー新宿と歩んだ12年

『こどもエコ広場新宿』OG
下山田 衣里さん
現在 山形大学1年
当時 早稲田小学校

Interview 2



インターン活動のリアル

2016年度CSOラーニング生 今村 彩香さん 現在 金融関連会社 当時 大妻女子大学	2017年度CSOラーニング生 江部 里奈さん 現在 株式会社ベネッセスタイルケア 当時 大妻女子大学
--	--

Interview 3



アルバイトを経験して

2012～2014年度 アルバイト 神成 はるかさん 現在 大学病院(薬剤師) 当時 慶應義塾大学	2013～2017年度 アルバイト 渡邊 彩華さん 現在 株式会社大和総研 当時 お茶の水女子大学
--	--

Interview 4



新宿での経験を、社会人として活かす

2011年度CSOラーニング生 岩澤 百合香さん 現在 損害保険会社 当時 中央大学	2011年度CSOラーニング生 久保田 拓朗さん 現在 独立行政法人都市再生機構 当時 上智大学	2012年度CSOラーニング生 香月 麻由子さん 現在 住商グローバル・ロジスティクス株式会社 当時 中央大学
---	---	--

Interview 5



新宿での経験を、研究に活かす

2010年度CSOラーニング生 箭内 茜さん 現在 小売業(店舗開発担当)/立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 当時 聖心女子大学	2016～2018年度 アルバイト 和田 恵さん 現在 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 当時 慶應義塾大学
---	--



エコギャラリー新宿と歩んだ12年

下山田 衣里

小学2年生から12年間、エコギャラリー新宿に通い続けている下山田衣里さん。エコギャラリー新宿の様々なプログラムに参加しながら成長し、中・高・大学生になってからはスタッフとして後輩たちを育てています。エコギャラリー新宿の15年の歴史を知り尽くしている彼女から、12年間の思い出、将来の夢やビジョンを聞きました。



『子どもエコ広場新宿』OG 下山田 衣里さん
現在 山形大学1年 当時 早稲田小学校

12年間の付き合いのスタート

下山田さんは、小学生の頃からエコギャラリー新宿に関わり始めて…今や大学生。最初のきっかけは、何だったんですか？

下山田 早稲田小学校に通っていた小学2年生の6月に、母に連れられて、エコギャラリー新宿の『新宿エコライフまつり』に参加したのが全ての始まりでした。

エコギャラリー新宿との、12年間の付き合いの始まりですね(笑)

下山田 そうですね(笑) そのイベントで、フラッシュと色々なブースを巡っている中で、「みどりの小道」環境日記を目にして、日記帳を見た時に、直感的に「おもしろそうだな！」って思ったのがスタートでした。

そのまま、毎年夏休みに12週間以上の環境日記をつけ始めた？

下山田 はい。2年生からハマって、毎年続けるようになり、結果的に5年間取り組みました。始めてみると、やっぱりとにかく楽しくて、今まで「環境」について考えてこなかったけど、日記をきっかけに「環境」について意識し始めて、実践してみるとまた新たな気づきがあったりというサイクルが…一番おもしろさを感じるころでした。毎年、『新宿区「みどりの小道」環境日記コンテスト』に応募していましたが、結果はどうでしたか？

下山田 最初の年に、当時2年生で「エコロジ賞(若葉賞)」を…そして、6年生の時には「区長賞」をいただきました。

個人から地域へ、広がっていくエコの輪

すごいですね。5年間取り組み続けて、良かったなと思うことはありますか？

下山田 環境日記の取り組みを通じて、地域住民とのつながりが強くなりました。自宅で作った「みどりのカーテン」のゴーヤーの種を地域の方に配ったところ、「来年から私の家でも始めてみよう！」という声がいっぱい聞こえて、7,8年経った今ではご近所で「みどりのカーテン」に取り組んでいる人が増えているという。長年続けてきて、身近な地域が少しずつ変わってきていることを実感できるので、良かったなと思います。

「みどりのカーテン」の取り組みは、今でも続けていますか？

下山田 今でも、ずっとやっています。地球温暖化対策として「環境」に良いだけでなく、育てていると愛着が湧いてくるので…とっても楽しいです！

環境日記の他に、エコギャラリー新宿との関わりはありますか？

下山田 小学3年生の4月から、エコギャラリー新宿で毎月第2土曜日に活動していることもエコクラブ『子どもエコ広場新宿』に入りました。そこから4年間、小学生のうちはずっと通っていました。子どもエコクラブの活動の中で、特に思い出に残っていることはありますか？

下山田 新宿中央公園にあるビオトープの畑で、色々なものを育てたことですかね。あとは、エコギャラリー新宿では自分の学校以外に友だちができるので、そういう楽しさが大きかったです！

小学校を卒業した後は、どのように関わっていましたか？

下山田 中学校に入ってから高校3年生までの6年間、今度は小学生のクラブ活動をお手伝いするスタッフ的なポジションで関わりました。参加者側からスタッフ側という風に、立場が変わったらまた何か違う楽しさがあるだろうなという思いがあって…続けることにしました。

かれこれ12年間、こんなに長く関わることになるというのは初めから想像していた？

下山田 正直、していませんでした(笑)

中高生になると色々忙しくなる中で、「面倒くさいなあ」と思ったりした時期はない？

下山田 ないですね。エコギャラリー新宿の活動を優先的に考えていたので、そのために学校の部活や委員会もゆるいものに入ったり、そういう基準で学校生活を過ごしていました。

それはすごい！(笑) そんな継続のモチベーションは何ですか？

下山田 一番大きな理由は、楽しかったから。あとは、職員さんやインターンの大学生の方々が優しくあったから。小学校を卒業して環境日記の取り組みが終わっても、『子どもエコ広場新宿』のスタッフを続ければ新しい学びや気づきが得られると思ったので、それがモチベーションでした。



2009年度CSOラーニング生 野沢さんと一緒に活動中！

当時から、うち(新宿環境活動ネット)でインターンしている大学生との接点はあった？

下山田 2009年度CSOラーニング生の野沢さんの代からですね。その後、岩澤さん(2011年度CSOラーニング生)とか、香月さん(2012年度CSOラーニング生)とか、飯田さん(2012年度CSOラーニング生)も含めて…歴代のインターンの大学生の方々と、一緒に活動してきました。

かねてからの夢を追い求めて、ペルーへ

大学生と一緒に活動してきて、ついに自分も大学生に！(笑) 大学受験は、どういう視点で臨みましたか？

下山田 小さい頃から、「環境」とは別に「古代文明」にもすごく興味があって。小学2年生の時に、上野にある国立科学博物館で『インカ・マヤ・アステカ展』という特別展をやっていて、それを見に行った時に「この研究をやりたい！」って思っ。そのまま今に至るまで興味を持ち続けて、南米のアンデス文明の研究が進んでいる山形大学に進学することにしました。

「環境」だけでなく、「考古学」も小学2年生の頃からブレずにずっと想いを貫いてきたんですか？

下山田 はい、ずっとです！

「考古学」のどの部分に、おもしろさを感じていますか？

下山田 うーん…。「考古学」はまだ多くの謎が解明されていない状態で、仮説を立ててそれを実証していく…その過程がおもしろいなと感じています。

今は山形大学に通っていて、大学でやりたいことも含めて、今後のビジョンはありますか？

下山田 3月から1年間、「考古学」を研究するためにペルーの大学に留学します。アバウトに言うと、ペルー北部に存在する「モチエ」って文明の研究をします。留学から帰ってきたら、山形大学のアンデス考古学のプログラムに入りたいなと思っています。そして、そのまま大学院に行って、研究の道を進もうかなって…。なるほど、明確なビジョンがあるんですね。ペルーから帰ってきて、さらにパワーアップした下山田さんと会えるのを楽しみにしています。エコギャラリー新宿にも、また顔を出してください！

(インタビュー日:2018年12月28日)



インターン活動のリアル

今村 彩香 × 江部 里奈

新宿環境活動ネットでは、『CSOラーニング制度』を通じて毎年ラーニング生を受け入れ、これまで30名以上の大学生・大学院生がインターン活動を経験してきました。修了生のお二人に、インターン活動を通じて体験したこと、学んだこと、感じたことなど、等身大の言葉で語ってもらいました。



2016年度CSOラーニング生
今村 彩香さん
現在 金融関連会社
当時 大妻女子大学

2017年度CSOラーニング生
江部 里奈さん
現在 株式会社ベネッセスタイルケア
当時 大妻女子大学

新宿環境活動ネットとの出会い

『CSOラーニング制度』を知ったきっかけ、新宿環境活動ネットで活動しようと思った決め手は何だったんですか？
今村 同じ大学の1つ上の先輩が『CSOラーニング制度』に参加していたこともあって、ラーニング制度については知っていました。あと、私はもともと環境教育に興味があって、環境教育のゼミに入っていました。それで、説明会に行ってみたんですが…自分が父の転勤で岡山県に4年半住んでいたということもあり、東京はみどりが

少ないと言われていた中で、都心の新宿でどんな環境教育を行っているのかに疑問を持ったというか、逆におもしろそうだなと感じて、ここで活動してみたいなって思いました。
江部 私は大学3年生になった時に、同じ大学で同じゼミだった今村さんが授業やゼミの時間にラーニング制度について話してくださって、それで知ったという感じです。なので、環境教育に興味を持ったのは3年生の最初の頃です。当時、環境教育について無知だったので、色々経験してみたいと思って、『CSOラーニング制度』に応募することを決めました。
なるほど。先輩の話を聞いたのが、きっかけだったんですね！
江部 はい！やっぱり、新宿環境活動ネットには一番身近な先輩(今村さん)が前年度にインターンされているという安心感がありました。あとは説明会の時に、他の団体は職員さんが説明していたけど、うちは前年度のラーニング生2人(今村さん・中村さん)が説明して、職員さんは後ろの方でそれを見守っていて、きっとラーニング生を信頼して任せているんだな、学生と職員さんの距離感が近いんだろうな、アットホームな雰囲気なんだな…って思ったのが、決め手になりました。なので、今村さんの影響は本当に大きい！(笑)

自分の理想とする環境教育の姿が見えた

ラーニング生が修了後もアルバイトとして残って説明会で話したり、次年度のラーニング生のメンター的な存在として卒業まで活動を続ける人が多いのは、うちの伝統になりつつありますよね。実際に、ラーニング生としての8ヵ月間はどんなことをしましたか？
今村 主に、小学生向けの出前授業やワークショップのお手伝いをしました。毎月1回の子どもエコクラブ『子どもエコ広場新宿』を中心に、夏休みには『エコにトライ！』というエコ講座が週1~2回あったので、結構ハイペースに活動しました。あと大きなイベントとして、秋には『新宿子ども環境シンポジウム』、冬には『まちの先生見本市！』があって、事務局としてイベント準備を進めるという…そんな8ヵ月間でした。
特に楽しかったこととか、今でも覚えていることとか…1つ挙げるとしたら？

今村 やっぱり、『まちの先生見本市！』かなと思います。60くらいの外部団体が出展する大きな環境教育イベントで、企業とかNPOとか行政とか、1つのイベントをいろんな大人の方々が一緒になって作り上げていく光景が新鮮で、すごく良い体験でした。当日は小学校を舞台に、子どもも大人も楽しそうに環境について学んでいる姿を見て、自分の将来の糧というか、私のやりたかった環境教育の理想形が目の前に見えたということで、印象に残っています！
江部さんは、いかがですか？
江部 お仕事の時は、今村さんとほとんど一緒です。私たちの代では、小学生向けのワークショップの中でアイスブレイクのパートを担当として任せていただいて、同期の市川さんと一緒にゼロから準備したことを覚えています。
お二人とも『CSOラーニング制度』を修了された後、卒業するまでの1年間、アルバイトとして継続的に携わっていただきました。
今村 就活などもあり、アルバイトになってからはシフトに入る回数が減ってしまったのですが…江部さんや市川さんなどラーニング生の後輩と一緒に、子ども事業のお手伝いをさせていただきました。2年目だったので、子ども達との距離が近くなり、自分のことを覚えてくれて「先生」って呼んでくれたのはすごく嬉しかったです！
ラーニング生やアルバイトとして、子ども達と接する機会が多かったと思いますが…どんなことを意識されておりましたか？
江部 環境教育の場だからこそ、手出しすぎないようにしようというのは、気をつけていました。例えば食育系の講座だったら、匂いとかを感じたりするじゃないですか。そういう時は、大人が正解を先に言わない。「こういう匂いがするよね」じゃなくて、「どういう匂いがする？」と問いかけるようにする。そういうところは誰かに教わったわけではなく、職員さんや今村さんなど先輩方の姿を見ながら、自然と意識していました。
環境教育のゼミに所属されていて、自分の研究に活かした経験などはありましたか？
今村 私は卒業論文で、エコギャラリー新宿で実施している夏休み子どもエコ講座『エコにトライ！』を題材として、そこに参加することも達アンケートを行い、あとは講座中に参与観察も行って…その2つの調査から、子どもたちの意識がどう変わったのか、教育効果を分析しました。自分がやりたかった研究を実現することができ、良い機会だったなと思います。
インターンの活動を卒論のテーマにしようって思ったのは、どのタイミングだったんですか？
今村 それはもう、はじめから！卒業論文は、絶対自分の関わっている環境教育とか、子どもについて取り組みたいと、ゼミに入る時から思っていて。新宿環境活動ネットに入って、ここで活動させていた

だいたからには、エコギャラリー新宿のワークショップを題材にしたいと思っていました。
ラーニング生になる前から卒論の構想を考えてたというのは、すごいですね。江部さんは、いかがでしょう？
江部 私は卒業論文の中で、自分でSDGs(持続可能な開発目標)をテーマとした大学生対象のワークショップを実施して、意識の変化を調べる研究を行いました。そもそもSDGsを初めて知ったのはエコギャラリー新宿の館内掲示物でしたし、ワークショップの手後も、エコギャラリー新宿の『サイエンスカフェしんじゅく』というワークショップをお手伝いした時にワールドカフェというやり方を体験して、それを参考にしました。そういう意味では、(インターンやアルバイトの経験を)結構活かせたかなと思います！

子どもと関わるチャンスが多い団体

最後に1つ。これから『CSOラーニング制度』でこの派遣先に応募しようか迷っている大学生にメッセージを送るとすると、新宿環境活動ネットはどんな人に向いていると思いますか？
今村 やっぱり、子ども向けの環境教育の現場を体験したい人が一番合うと思います。あとは江部さんも言っていた通り、卒業後もアルバイトとして関われるし、学生スタッフも多く、他の派遣先と比べてアットホームな雰囲気であることは間違いない！(笑) そういう雰囲気の中で、企業とか、他のNPOとか、多くの団体の方々と一緒に、1つのイベントだったり、1つの講座を作り上げていってみたいと思う人には向いているかなと思います！
江部 そうですね…。まず、子どもが好きな人には向いていると思いますし、『まちの先生見本市！』など1,000人程の来場者が集まる大きな環境教育イベントも運営している団体なので、イベント企画とかに興味がある人にとってもいいんじゃないかな。あとは、新宿環境活動ネットはラーニング生が職員さんと同じ目線で、現場で動いて、体験して、学んでいくというような機会が多い団体なので…当事者として現場で色々なことを経験したいと思う人には、合っているんじゃないかと思います！
後輩に向けた素敵なメッセージを、ありがとうございました！
(インタビュー日:2019年1月5日)



インターン活動を題材にした今村さんの卒業論文



小学生向けのワークショップをサポートする、今村さん・江部さん



アルバイトを経験して

神成 はるか × 渡邊 彩華

新宿環境活動ネットには、『CSOラーニング制度』の修了生をはじめ、多くの大学生・大学院生が学生アルバイトとして携わっています。単なる事務や事業のサポートだけでなく、主担当として運営の中心を担うことも。友達の紹介がきっかけで参加し、3年以上継続的に関わったOGのお二人を迎え、当時のエピソードなど、お話を聞きました。



2012～2014年度 アルバイト
神成 はるかさん
現在 大学病院(薬剤師)
当時 慶應義塾大学



2013～2017年度 アルバイト
渡邊 彩華さん
現在 株式会社大和総研
当時 お茶の水女子大学

普通のバイトでは得られない経験

お二人には長い間、アルバイトとして新宿環境活動ネットに携わっていただきましたが、そもそもどういう経緯だったんですか？

神成 当時、ここでアルバイトしていた天野さんという方が大学のサークル(野鳥同好会)の先輩で、1年生の時に『CSOラーニング制度』の説明会があるんだけど、行かない？って誘われて、よく分からないままに説明会に参加したのが最初のきっかけです(笑)なるほど、『CSOラーニング制度』の説明会に参加されたんですね！

神成 はい。ただ、私は薬学部だったのでカリキュラムの縛りが大きくて、ラーニング生として活動するのは難しそうだなと思って。でも、新宿環境活動ネットは割と自由が効きそうだったので、天野さん経由で職員さんと相談して、アルバイトとして入ることになりました。そんなルートだったんですね(笑) 渡邊さんは、どんなきっかけでしたか？

渡邊 私は、友達だった神成さんの紹介です。2年生の春に家庭教師のアルバイトが終わって、4月からどうしようかなと考えていた時に、ちょうど神成さんと会って、「環境系NPOの事務員アルバイトを募集している」とだけ聞いて、そのままスッと入っちゃいました。

入ってみて、いかがでしたか？

渡邊 事前情報がほぼなくて、「事務だから、おそらく書類を作ったりするのかな？」くらいのイメージで入ったら、実際には事務だけではない感じ(笑) おそらく、神成さんの誘い文句の中の“環境系のNPO”っていう部分が大事だったんですけど、私は“事務員アルバイト”っていうところだけしか考えてなかった(笑) 色々な経緯があるんですね(笑) どれくらいの期間、アルバイトとして携わっていましたか？

神成 大学1年生の5月に入ったから、3年半くらいです！

渡邊 私はもっと長くて、大学2年生から大学院の修士卒業までなので約5年間！

長いですね！本当にありがとうございます。先ほど「環境系NPOの事務員アルバイト」と仰っていたんですけど、具体的にはどんな仕事をしましたか？

神成 エコギャラリー新宿で開催するイベントのチラシを作ったり、私の場合は館内掲示物のイラストを描いたり…あとは、環境系イベントにスタッフとして参加したりですかね。

渡邊 本当に、いろんなお仕事をちょっとずつやっていくという感じでした。大学院に入ってから2年間は、施設管理業務の補助だったり…あと、『新宿区子ども環境絵画コンテスト』の事務局を「渡邊さんよろしくね！」みたいな感じで全部任せられたのが印象に残っています。1つの事業を最初から最後までガッツリ関わりたいなことから、なかなか普通のアルバイトだとできないことなので、最後にそれができたのが良い経験になりました。

神成さんは、印象に残っていることを1つ挙げるとしたら何ですか？

神成 一般の学生アルバイトで経験する人はあんまりいないなと思ったのが、夏休みに新宿中央公園で実施している『セミの羽化観察会』の補佐ですかね。スタッフだったんですけど、こども達と一緒にセミを観察しながら童心に返ったような気持ちになり、良い経験だったと思います。



想像の100倍くらい、超ローカルな活動

長い間、うちのNPOとかエコギャラリー新宿に関わってみて、改めてどんなイメージですか？

渡邊 新宿区の公共施設ということで、お役所的な、もっとドライな施設になって勝手に想像していたんですけど…。実際はそんなことは全くなくて、お客さんを「〇〇さん」って名前と呼んでいたり、ローカルな事情を驚くほど把握していて…もう想像の100倍くらい地域に密着していて、職員さんが地域の中に入り込んで仕事をしている姿が印象に残っていますね。

確かに、地域の方々に寄り添って、連携と協働で施設運営をしているところは他にない特徴ですね。話が変わりますが、今のお仕事としては、どんなことをされているんですか？

神成 今の仕事としては薬剤師で、大学病院で入院や外来の患者さんのお薬を調整したり、患者さんのカルテをチェックして問題が起こっていないかを確認したり…そんな対応をやっています。

渡邊 私は、民間シンクタンクのR&D研究開発部門で働いていて、自社向けのプロダクトの検証などを行なっています。ちょっと説明するのが難しいんですけど、IT系のフレームワーク製品っていう、カスタマイズを前提にしたフレームワークを製品として売ってっていう仕事です。

難しいですね(笑) お仕事は楽しいですか？

渡邊 まだ入社1年目なので、毎日分からないことだらけです。でも、エコギャラリー新宿のアルバイトも、何も分からない状態で飛び込んで、与えられたことをやりながら覚えるみたいなのところがあったので…そういうところは今の仕事に活きてるかなと思いがら、会社で過ごしています。

世代を越えたユースのつながり

神成さんは、アルバイト経験の中で、今の仕事に役立っていることはありますか？

神成 エコギャラリー新宿の事務作業として、Excelを使ったアンケート集計とかをやる機会が多かったので、その経験は活かしています。仕事の中でExcelを使う場面があるので、役立っています！

渡邊 このアルバイトをしてなかったら、大学内の同年代の人としか関わらなかったと思うんですけど…エコギャラリー新宿はこどもから大人までいろんな人が来て、関わる事ができたことは、会社に入る上ですごく役に立ったなと思います。

エコギャラリー新宿は本当にいろんな人が携わっていて、学生スタッフだけでもCSOラーニング生やアルバイトや学芸員実習生や…そういうタテとヨコのつながりがあるのも魅力ですよね！最後に、これからうちでアルバイトやインターンをしようか考えている方に向けて、メッセージをお願いします。

神成 うちにアルバイトとして来てくれると、CSOラーニング生とか、学芸員実習生とか…年齢の近い、色々なバックグラウンドを持ったすごい人達と一緒に働けるので、そういう意味でもとてもやりがいのある環境なんじゃないかなって思います。

渡邊 私がアルバイトとして入った時も、職員さんが何度も「どんな事業に関わりたい？」って希望を聞いてくれたので、明確な強い想いを持って入って来てもらうのも良いと思います。でも、私そういう想いは特になかったんですけど、結果的には環境絵画の事業に携わったりしたので、「やりたいことはまだ定まってないけど、何かやってみてみたいな…」っていう気持ちがちょっとでもある人は、まずは入ってみると楽しいのかなと思いました。

これを見て、新しい後輩が増えると良いですね。ありがとうございました！

(インタビュー日:2019年1月19日)



渡邊さんが最後に携わった、環境絵画事業の様子



新宿での経験を、社会人として活かす

岩澤 百合香 × 久保田 拓朗 × 香月 麻由子

新宿環境活動ネットでは、OB・OGが年に一度の「OB・OG会」で集い、卒業後も『まちの先生見本市!』などのイベントではボランティアとして運営を支えています。社会人となった今もこうしたイベントにほぼフル参加していただいている3名のOB・OGから、当時のインターン活動、就活や今のお仕事とのつながりについて、大いに語ってもらいました。



2011年度 CSOラーニング生 岩澤 百合香さん 現在 損害保険会社 当時 中央大学	2011年度 CSOラーニング生 久保田 拓朗さん 現在 独立行政法人 都市再生機構 当時 上智大学	2012年度 CSOラーニング生 香月 麻由子さん 現在 住商グローバル ロジスティクス 株式会社 当時 中央大学
---	---	---



魅力的な先輩と働いてみたい

まずは、『CSOラーニング制度』に応募し、多くの派遣先の中から新宿環境活動ネットを選んでくださった経緯について伺いたいです。

岩澤 父が損保ジャパンで働いていて、その関係で大学2年生の時に『CSOラーニング制度』を知りました。私は法学部だったので、「環境」は全然学んだことがなかったんですけど、学生のうちに何か挑戦してみたいなと思って応募しました。説明会のブースでお話されていたラーニング生の先輩方(野沢さん・箭内さん)がすごく魅力的な人だったのと、シフトが自由で自宅からも近いということで、第一希望にした感じです。

お二人は、いかがですか？

久保田 僕は大学のキャリアセンターに『CSOラーニング制度』のポスターが貼り出されていて、それを見て、大学3年生の時に応募しました。法学部で行政法や環境法を学ぶゼミに入っていて、「環境」もキーワードの一つだったので、そういう活動をNPOに入って体験できるおもしろそうな制度だなと感じて、説明会に行きました。説明会で新宿環境活動ネットの存在を初めて知ったんですけど、年の近い先輩方がいきいきと説明している様子を見て、いつの間にか気持ちが前のめりになっちゃって！説明会では3ターンがあって、3団体の説明を聞く機会があったんですけど…2回連続でうちのブースに居座っていたくらいですから(笑)

香月 3回じゃなくて？(笑)

久保田 いや、2回です！(笑) 当時、環境財団でご担当だった芦沢さんから、「2回も同じブースに居座ったのは君くらいだ」と言われました(笑)

香月 私は経済学部で環境経済に興味があり、大学で学ぶだけでなく、現場を経験してみたいなと思っていました。当時、Twitterが流行っていて…「あなたにおすすめ」みたいな感じで環境財団のアカウントが出てきて、たまたま『ラーニング制度』について知りました。説明会で色々なブースを巡って、一番自由な雰囲気だったので、ここに決めた感じです！(笑)

“自由”とか、“ゆるい”とか、“アットホーム”とか、みなさんうちのことをそんな感じで表現しますよね！(笑)

久保田 そうそう、いつもそれを押ししてる！(笑) ところで、ここにいるみなさんはラーニング生を修了した後もアルバイトとして残って、社会人になった今でもボランティアとしていつもイベントなどをお手伝いいただいています。新宿環境活動ネットとの関わりが、長いですね！

香月 私は2年生からなので、(ラーニング生とアルバイトで)学生時代に計3年！

岩澤 私も、計3年！

久保田 僕はラーニング生になったのが3年生の時だったので、2年間。1月にある『まちの先生見本市!』には、卒業後も毎年顔を出しています。かれこれ、6回くらい！？

香月 多いですね！まあ、ここにいるメンバーはいつも『まちの先生見本市!』で集まってるから、みんな同じくらいか(笑)

「楽しさ」こそが、関わり続ける理由

確かに、続けていただいている理由は何でしょう？

岩澤 私は、他のアルバイトはそんなに好きじゃなくて、毎日「バイト行きたくない」って思ってたんですけど…うちのNPOのバイトは別に嫌だなんて思わなかった。そんな気持ちではなかったし、楽しかったので、やり続けようと思いました。

香月 『CSOラーニング制度』って、8か月間じゃないですか。私の場合は「アツという間に終わっちゃった」という感覚で、「もうちょっとやりたかった！」みたいな気持ちがあったからですかね。あとは、前年度の先輩方(岩澤さん・久保田さん)も残ってるし、私も残っても良いのかなみたいな流れがありました(笑)

世代を越えて、良い流れが定着してきていますね(笑) さて、ここからは就活や現在のお仕事について伺いたいです。仕事を決めるにあたって、大切にされたことはありますか？

香月 私はここでのインターンを経験して、自分は1つのことをずっとやるより、色々なことを幅広くやる方が好きだということが分かって、そういう基準で色々な業界を見てました。

そういう中で、どういう決め手で今の会社を？

香月 今は、住商グローバル・ロジスティクスという貿易会社の経理です。業界よりも会社の雰囲気を見て、新宿環境活動ネットみたいに自由度が高いところが良いと思って選びました。

久保田さんと岩澤さんは、どういう視点で就活をしていましたか？

久保田 僕はもともと公共性の高い仕事をしたいと思っていて、鉄道とか、インフラ系とか、あとは住宅業界も受けていました。今は、UR都市機構で仕事をしてるんですけど、賃貸住宅だったり、都市再生だったり、公共性の高い仕事ができそうだなと思って！

岩澤 私は自分のやりたいことがなかなか見つからなかったので、色々な業界を見ていました。今は損保会社で働いているんですけど、将来を考えて長く働きたいし、女性でも活躍できそうな会社がいいと思って、この会社に決めました。

就活をしたり、仕事をしたりする上で、ラーニング生やアルバイトの経験が役立つことはありますか？

久保田 就活の時、面接官の食いつきは良かったかなと思います。みなさんどうですか？

香月 良いと思う！食いつきも良いし、特徴的な勤務先だから、その人のイメージが分かりやすくなりませんか？

久保田 インターンやアルバイトを通して、職員さんだったり、地域の方だったり、他大学の学生さんだったり…色々な人と関わる機会があると思うので、どういう立ち位置でどんな事業に携わったかをストーリーとして具体的に喋ると、プラスに評価されたように感じます。

今の仕事にもつながる、インターン時代の経験

お仕事では、何か役立っていることはありますか？

久保田 メチャクチャありますね！僕の職場って、大体2年ごとにジョブローテーションがあって、事務系の仕事を転々と異動していくんですね。経理だったり、総務だったり、住宅管理だったり。色々な部署で仕事をする時に、部内の調整業務っていう、コミュニケーションを取って、仕事を振り分けたりまとめたりっていう仕事が必要あって。そこで、うちのNPOで『まちの先生見本市!』の事務局として、企業とかNPOとか行政とか、いろんな立場の人と一緒に1つのイベントをつくり上げていった経験は、すごく活かしているかなと思っています。

香月さんは、いかがでしょう？

香月 インターンをしていて思ったのは、うちのNPOって職員さんのタイプがバラバラじゃないですか。企業出身だったり、元教員だったり、研究者的な人だったり…根底の想いは同じでも、いろんな個性の人がいるじゃないですか。そこがすごくおもしろいな、良いところだなんて思ってたんですね。今は企業で働いていて、うちのNPOとは業種や規模が違いますが…“社会の縮図”だったなあと。組織のあり方みたいなものを、すごくコンパクトに見られた気がしました。

なるほど、おもしろい見方ですね。長い時間、本当にありがとうございました。

(インタビュー日:2019年1月19日)



多くのユースが携わるNPOのメインイベント『まちの先生見本市!』



新宿での経験を、研究に活かす

箭内 茜 × 和田 恵

新宿環境活動ネットには、様々なバックグラウンドのユースが集まります。インターン生や学生アルバイトとして新宿のローカルな環境活動に携わりながら、社会全体や国際的な 이슈にも目を向け、研究に取り組むユースがいます。大学院生としてSDGsなどの社会課題と向き合っているお二人に、研究と実践の関係や将来のキャリアについて語ってもらいました。



2010年度 CSOラーニング生
箭内 茜さん
現在 小売業(店舗開発担当) / 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科
当時 聖心女子大学

2016~2018年度 アルバイト
和田 恵さん
現在 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
当時 慶應義塾大学



広義の「環境」をテーマに、色々な人と関われる

まずは、新宿環境活動ネットとの出会いについて教えてください。
箭内 では、私から…。大学生だった当時、NPOに限らず「何かしら社会と関わりたいな」という風に思っていて。実は当時、別のNPOにも1年間くらいインターン生としてお世話になっていて…そのプログラムが終わった時に、「もう一度、また違うNPOとも関わりを持ってみたい」と考えているタイミングで、『CSOラーニング制度』を見つけたのがきっかけでした。

『CSOラーニング制度』には、関東地区だけでも20前後の派遣先があると思うのですが…その中で、うち(新宿環境活動ネット)を選んだ理由や決め手はありますか？
箭内 他の派遣先は、「環境」の特定分野に専門性があるところが多くて…その意味で、ここは広い意味で「環境」を捉えているところに、他とは違う特徴を感じました。私は大学で「環境」を専門に勉強していたわけではなかったのですが、新宿環境活動ネットに入れば、学校のこどもから地域の大人まで、「環境」をテーマに色々な人と関わりながら活動できそうなのがいいなと思って、そこが決め手でした。

和田さんは、いかがですか？
和田 私は、飯田さん(2012年度CSOラーニング生)の紹介で、アルバイトとして来ました。もともと大学1年生の頃から、『まちの先生見本市!』などのNPO事業を単発でお手伝いさせてもらっていて…その時から、おもしろそうな団体だなと感じていました。ちょうど他のアルバイトもしていない時期だったので、誘っていただいて、継続的に携わることになりました。

学生アルバイトとして、どれくらいの期間になりますか？
和田 大学3年生から始めて、大学院修士2年生までの4年間。大学生だったのは最初の2年間は、主にエコギャラリー新宿の文化事業をお手伝いしていました。その当時、毎月のように開催していた『ランチタイムコンサート』のチラシ作成やイベント当日の運営サポート、会計管理や報告書づくりとか。他にも、『ニットカフェ』『水彩画講座』『まち歩きイベント』など、裏方をよくやっていました。その後、大学院時代の2年間は、施設管理業務の補助などをしていました。

学生アルバイトとして、どれくらいの期間になりますか？
和田 大学3年生から始めて、大学院修士2年生までの4年間。大学生だったのは最初の2年間は、主にエコギャラリー新宿の文化事業をお手伝いしていました。その当時、毎月のように開催していた『ランチタイムコンサート』のチラシ作成やイベント当日の運営サポート、会計管理や報告書づくりとか。他にも、『ニットカフェ』『水彩画講座』『まち歩きイベント』など、裏方をよくやっていました。その後、大学院時代の2年間は、施設管理業務の補助などをしていました。

箭内さんは、インターン生だった8か月間、どんな活動をされていたんですか？
箭内 当時、CSOラーニング生が毎年必ず作っていた『エコぼけ』という小学生向けの環境教材の作成をしていました。自分たちで協賛先を探すところから始めて、内容を決めて、記事を書いて、印刷して、学校に配布して…小さな冊子でしたが、1つのモノを自分たちの手で作るという一連の作業を体験させていただきました。
 インターン期間をふり返ってみて、いかがですか？
箭内 すごく色々な人と関わったなと思う部分と、もっと積極的にできたんじゃないかなと思う部分がありますね。やはり自分自身、大学が忙しかったのもあるんですけど、他のアルバイトを掛け持ちしていたりして。もっとこちにウエイトを置いて、自分から積極的に関わっていたら、もっともっと良い出会いや、今につながるものを得られてたんじゃないかなという風に思います。これは、将来のうちのラーニング生に向けたメッセージですね(笑)

「地域コミュニティを支えている」と誇れる仕事

和田さんは、印象に残っているエピソードなどありますか？
和田 私は、わりと事務作業を任せられることが多かったです。その結果、色々なイベントのポスターやパンフレットなどを作っていく中で、Illustratorというデザインソフトが使えるようになり、我ながら、自分が手掛ける広報物のクオリティーも上がってきたんじゃないかと思っています(笑) あるコンサートで、ベテランの演奏者の方がいらした時、「60年ぐらやって、今までで一番良いポスターだった!」って言ってくれたことがありました。あれは、結構嬉しかったです! あと、記憶に残っていることと言えば…『まち歩きイベント』に撮影係として同行させてもらったことがありました。そこで、おじいちゃんが教えて、おばあちゃんが楽しむみたいな…学び合いの空間ができていた。うちのNPOはこういうコミュニティをつくっているんだな、日頃の事務作業もこういうところにつながっているんだなと思って、やりがいを感じた瞬間でしたね。



エコギャラリー新宿の文化事業「ランチタイムコンサート」

社会人学生として、大学院へ

ここからは、インターンやアルバイトでのご経験を踏まえて、大学院での研究についてお聞きしたいのですが…

和田 私は、慶應義塾大学大学院の政策・メディア研究科というところで、SDGs(持続可能な開発目標)をテーマに研究をしています。グローバルガバナンスの視点から、SDGsという国際目標を各地域でどうローカライズしていけばいいのを探っています。一例としては、大学キャンパスのいたるところ、机やトイレなどにSDGsを紹介するステッカーを貼るキャンペーンを仕掛けて、SDGsの認知度を2割から8割まで向上させたり。修士論文では、日本企業のSDGsに対する取り組み状況について調査しました。

箭内さんは、どんな研究をされているんですか？

箭内 私は、立教大学大学院の21世紀社会デザイン研究科に、社会人学生として入っています。自分自身が小売業に勤めているので、仕事は環境とは直接関係ないんですけど、社会の中で小売業がどうあるべきなのかを研究テーマにしています。社会人5年目で大学院に入ったのですが、当時、どうしても仕事中心の生活になっちゃっていて…大学生の頃を思い出して、やっぱりもう少し社会とも関わりたいなって思って、大学院に通うことにしました。社会人学生になると決断したプロセスを、もう少し詳しく教えてくださいませんか？

箭内 もともと、いつか大学院に行ってみようかなとは思っていたんですけど、自分の勉学の頭にも、あとは金銭的にも、あんまり親に負担かけられないなと思って、一度は社会人になる決断をしました。でも、いつか大学院に行ってみようかなってのは、ずっと頭の中にあって。就活でエントリーシートを書く時に、「御社の〇〇という事業を通じて、こうやって社会に貢献したい〜」みたいなことを、みんなよく書くじゃないですか。私もそういう夢を抱いて入ったんですけど、実際に会社に入ってみると目の前の仕事に追われがちで、「私の仕事は、社会のために役立ってるのかな?」っていう風に思い始めて。それで、大学院を受験したという経緯ですね。





社会人学生として大学院に入学してみて、いかがですか？

箭内 私は、社会人学生を多く受け入れる研究科に入ったので、仕事との両立は全然大丈夫です。5年間企業で働いていましたが、仕事に没頭する中で自分の視野がこんなにも狭くなっていたんだなということを感じ、大学院に入って、すごく視野が広がったことを実感していますね。

和田さんは、うちのNPOでの活動と大学院での研究のつながりは何かありますか？

和田 SDGsに関する研究を進める中で、国連の『ハイレベル政治フォーラム』に参加させていただく機会がありました。そこで、日本の自治体のSDGsに関する取り組みを紹介するリーフレットを作ったんですけど、実は、新宿の事例も紹介してもらいました！日本を代表する大都市である新宿における都市型の取り組みを、私なりにPRしました。そういう意味で、自分の研究とNPOでの活動が結び付いているかなと思います。

大学院でSDGsというグローバルなテーマの研究をしていて忙しい中でも、毎週コンスタントにバイトのシフトを入れてくださって…。うちのNPOでは、新宿のローカルな活動を支える事務作業をすることが多かったと思いますが、4年間続けたモチベーションはどこにあったんですか？

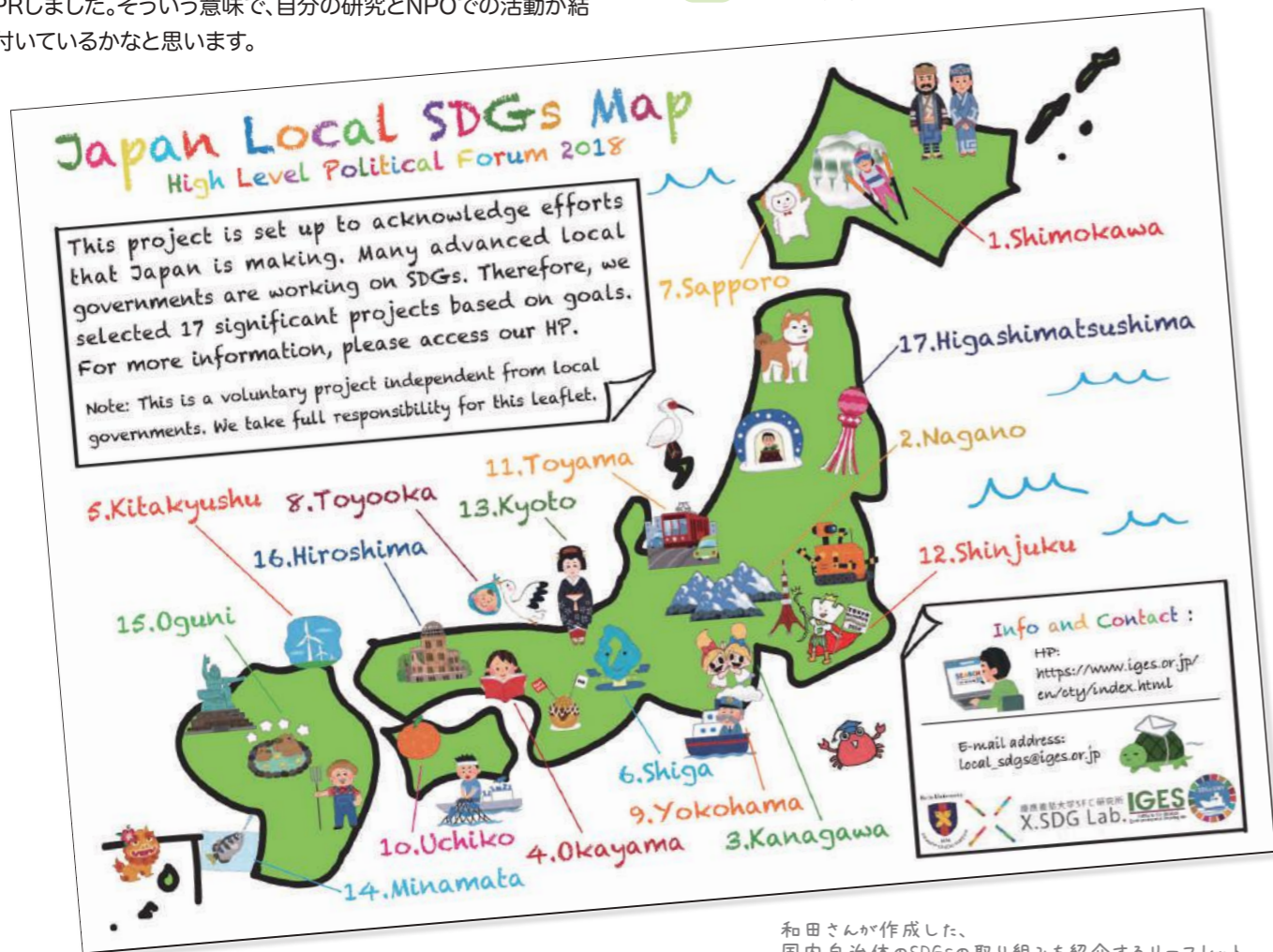
和田 リアルな本音を言うと、職員の方がすごく優しく、働きやすかったというのが一番なんですけど(笑)あとは、大学院だとどうしてもアカデミックな人との付き合いが多くなりがちで、それこそ外務省とか、知事とか、市長とか…上の立場の人と付き合う機会も増える中で、このアルバイトでは、新宿区という基礎自治体の環境活動の現場で、ローカルな視点で地域の人とフラットにふれ合えるというのが、自分にとってすごく貴重ななと思って。そういう意味で、続けて良かったです！

日本各地のSDGsに関する実践事例を見てきた研究者の立場からすると、新宿環境活動ネットとかエコギャラリー新宿とかの取り組みは、どんな風に見えていますか？

和田 詳しく分析しているわけではないのですが、新宿は“ハード面”ではなく“ソフト面”で頑張ろうとする姿勢がすごいと思います。他の自治体だと、どちらかと言うと施設を作ろうとか、箱物などの“ハード面”から始めるところが多いけど、新宿はゴーヤの「みどりのカーテン」で地道にCO2を吸収していこうとか、区民から衣服回収をして3Rを推進していかうとか、“ソフト面”の工夫で解決しようとしているのが、ユニークだなと。

なるほど！エコギャラリー新宿の場合は、これからもう少し“ハード面”も頑張らなきゃいけない面もありますけど…(笑)

和田 確かに！(笑)



和田さんが作成した、国内自治体のSDGsの取り組みを紹介するリーフレット

研究・実践の経験を踏まえて社会へ

大学院での経験を経て、これからの進路やビジョンはどのように描かれていますか？

和田 私は、今春から大和総研という民間シンクタンクに就職します。学部時代から、ずっとSDGsをテーマに研究と活動を続けてきました。近年、社会的にSDGsを推進する機運が盛り上がりつつあるので、これからもその流れの中で頑張りたいと思っています。自分の将来的なビジョンとしては、SDGsは2030年までのゴールなので、その次の2045年か50年あたりをターゲットにした持続可能性に関する国際目標の政策立案者になりたいと考えています。まずはシンクタンクで国際交渉に携わり、これまで新宿などでローカライズの現場も見てきた経験を活かしながら、ローカルレベルでより実現可能な国際目標を作っていける人材になりたいなと。



(インタビュー日:2018年12月28日)

Webサイトも、ぜひご覧ください！

- NPO法人新宿環境活動ネット
www.sean.jp
- エコギャラリー新宿(新宿区立環境学習情報センター)
www.shinjuku-ecocenter.jp

インタビューを終えて

記念誌に収録した計5本の対談にインタビュアーとして参加したお二人から、インタビューを終えてコメントをもらいました。



インタビューを通じて、新宿環境活動ネットやエコギャラリー新宿で活動する上での良さを再発見できた気がしました。例えば、『こどもエコ広場新宿』や『エコにトライ!』について、ただ彼ら・彼女らと楽しく活動するだけでなく、どうすればより良い時間にできるのか考えながら活動している先輩方のお話が印象に残りました。今後のアルバイトとしての活動をより良くするには何が必要か、改めて考えていきたいと思っています。

2018年度CSOラーニング生
立教大学4年 関 浩明

エコギャラリー新宿での出会いや経験などを踏まえた、みなさんのお話やこれからの展望はとてもしっかりと、自分も頑張ろうという勇気をもらいました。自分次第で、出会いやつながりはつくっていけるというメッセージが、とても印象深いです。かつての職員さんとのエピソードなどから、色々な歴史を感じ、人と人との温かいつながりがあってこそこのエコギャラリー新宿であり、新宿環境活動ネットなんだと、より一層感じました。残された大学生活へ、強力なアドバイスを沢山いただきました！

2018年度CSOラーニング生
大妻女子大学4年 村上 黎南

MESSAGE

OB・OGからのメッセージ

学生時代にインターンや学生アルバイトとして新宿環境活動ネットに携わったOB・OGから、当時の思い出や現在のお仕事や生活とのつながりについて、メッセージをもらいました！

栗原 咲子さん

(2005年度 CSOラーニング生)

現在 三井化学株式会社、パトランKurumeチーム
当時 中央大学

私はCSOラーニング生、アルバイトとして3年間活動に関わり、「協働」するすばらしさを学びました。冬の寒い夜、地域ボランティア、企業、行政、活動団体の方々が小学校の理科室に集まりました。ダウンやコートを着たまま、『まちの先生見本市！』の打ち合わせで熱く議論を交わす大人たちの姿を見て、胸が熱くなったことを今も覚えています。同じ目標に向かって異なる立場の人が、強みを生かして貢献し合うと、大きな成果を収めることができる。そんな場にいた経験は、約15年経った今、仕事の傍ら関わる地域活動を前に進める大きな力になっています。「協働」する大人たちの笑顔も忘れません。私も次の世代に体現してこの素晴らしさを伝えていきたいです。



木明 拓椰さん

(2011～2013年度 学生アルバイト)

現在 外務省
当時 慶應義塾大学

2011年5月から3年ほど、お世話になりました。東日本大震災の直後で、これまでにない環境への意識が高まった時期でした。現在は経済、特に国際貿易の仕事していますが、近年の研究では適切な環境政策が経済に、適切な経済政策が環境に良い影響を与えることが分かっています。今や経済は環境なしに語るができなくなっており、新宿環境活動ネット(エコギャラリー新宿)で身近な環境について肌身で感じたことが、世界経済への視点でも生きています。



酒井 智子さん

(2006年度 CSOラーニング生)

現在 0歳児の子育て中
当時 中央大学

私はラーニング生の当時、同期だった2人とともに、小学生向け環境教材『エコぼけ』の製作に携わりました。『エコ王子』を考案し、4コマ漫画や「みどりの小道」環境日記の表紙を描かせていただいたことも印象に残っています。また、天ぷら油バスで行くエコツアーに参加し、バイオディーゼル燃料の供給所に立ち寄りながら北海道まで行ったことは、今でもよく覚えています。現在は、岐阜県の中山間地域で、食べ物とエネルギーの地産地消に取り組んでいます。



櫻井 航平さん

(2014年度 CSOラーニング生)

現在 学校教諭(中・高校)
当時 東京農業大学

新宿環境活動ネット設立15周年、おめでとうございます。1年間という短い期間でしたが、多くの活動に携わる機会を与えていただきました。『まちの先生見本市！』などのイベントを通じて、様々な企業や行政の方々とのつながりを作上げていく大切さを学びました。新宿環境活動ネットの益々のご発展をお祈り申し上げます。



鈴木 保奈美さん

(2014年度 CSOラーニング生)

現在 「青年海外協力隊」派遣予定者
当時 創価大学

インターン活動では、『こどもエコ広場新宿』などのこども向け環境講座を通して、企業とこどもをつなげる仲介役のスタッフとして関わらせていただきました。講座には毎回多くの人々が集まり、老若男女を問わず、様々な人が環境に関心を持っていることが印象的でした。環境問題に対する関心は、今も強く抱いています。卒業後、大学院では廃棄物からエネルギーを生成する研究を行い、今後は『青年海外協力隊』に参加する予定です。



中村 美南さん

(2016年度 CSOラーニング生)

現在 広告代理店(事務職)
当時 大妻女子大学

新宿環境活動ネットでのインターンは、身近な環境問題への意識を持つきっかけとなりました。インターンを経験するまで、私は「環境問題」というと複雑で大きなテーマのような気がしていました。しかし活動を通して、身のまわりの問題に関心を持ち、行動してみようと思うようになりました。また、環境先進国と呼ばれるドイツへの旅行後に、現地で見つけたエコについてポスターにまとめ、エコギャラリー新宿の情報コーナーに掲示させていただいたことも、思い出に残っています。



平 希井さん

(2018年度 学生アルバイト)

現在 一般財団法人日本民間公益活動連携機構
当時 立教大学大学院

15周年おめでとうございます。携わった仕事の中では、「みどりのカーテン」プロジェクトがとても印象に残っています。区民が区民へその良さを、愛情を持って伝える姿は、私が大都市・新宿に抱いていたイメージを根底から覆すものでした。素敵なNPO職員の皆さん、同じ学生スタッフの皆さんと一緒にできて光栄でした。今春からは、民のお金を民のために活用する仕事をします。新宿環境活動ネットで得た経験とつながりを大切にしていきたいと思っています。



江田 清奈さん

(2015年度 CSOラーニング生)

現在 児童指導員(放課後子ども教室)
当時 東京学芸大学

インターン生として事務作業から講座運営まで様々な活動を行いました。なかでも『こどもエコ広場新宿』での活動が思い出に残っています。「環境」といっても自然環境から食環境、生活環境などあらゆる「環境」をテーマにしていて、こどもたちと一緒に楽しくエコを学ぶことができました。現在は「放課後子ども教室」で働いていますが、ここで言う行事や工作活動の際にも、当時の活動がとてもためになっています。



市川 智也さん

(2017年度 CSOラーニング生)

現在 東洋大学

自分はラーニング生として新宿環境活動ネットの活動に参加するまで、環境活動に関わる機会は一切ありませんでした。なので、こども事業のスタッフとして参加するときは、教える立場である一方、こども達と一緒に驚き、学んでいました。また、ワークショップを手伝っている中学生スタッフから感じることも多々ありました。新宿環境活動ネットは、年代関係なく学び合い、感動を共有できる素晴らしい場所だと思います。これからも世代を越えた学びや感動を通して、エコについて考えるきっかけを作り、自らも考えていこうと思います。



清水 瞳さん

(2018年度～ 学生アルバイト)

現在 慶應義塾大学大学院

大学の先輩である和田さんから誘っていただき、新宿環境活動ネットに入りました。実家のある長野県伊那市が新宿区と姉妹都市であることを知り、新宿環境活動ネットがより身近な存在になりました。また仕事の中で、様々な企業や団体の社会貢献活動を見る機会があり、自分の視野が広がりました。大学院ではSDGsに関する活動をしており、新宿環境活動ネットと新宿区の連携の様子を身近に見ることは、自分の研究にもつながっています。



環境財団の皆様からのメッセージ

2004年度から、『CSOラーニング制度』（主催：損保ジャパン日本興亜環境財団）に参加してきました。これまでお世話になった歴代の環境財団の皆様から、お祝いのメッセージをもらいました！

富沢 泰夫さん
(2002～2011年度：事務局長)

15周年、おめでとうございます。『CSOラーニング制度』に長年ご協力いただき、感謝申し上げます。エコギャラリー新宿の元・館長である御所窪さんをはじめ、スタッフの方々が温かく見守り、ユースの力を引き出してくださる新宿環境活動ネットの環境はとても魅力的でした。在職当時、ラーニング生が制作する小学生向け環境教材『エコぼけ』を見るのが楽しみでしたし、ラーニング生が考案した『エコ王子』がエコギャラリー新宿の公式キャラクターとなり、今でも親しまれているのは嬉しい限りです。SDGsの流れの中、その推進役として、新宿環境活動ネットが益々活躍されることを祈念いたします。



芦沢 壮一さん
(2007～2016年度：担当職員)

2007～2016年度の10年間、『CSOラーニング制度』の運営担当者として関わらせていただきました。新宿環境活動ネットには、いつも明るく楽しく、主体的に活動をしている学生さんが多く、とてもアットホームな職場で受け入れていただいたことと思います。長くご尽力されたエコギャラリー新宿の元・館長である御所窪さんのご退任と私が財団を離れるタイミングが重なり、一緒に送別会で祝っていたいただいたことを昨日のことのように覚えています。これからの益々のご発展を応援しています！



近藤 由美さん
(2017～2018年度：担当職員)

新宿環境活動ネットの設立15周年、おめでとうございます。『CSOラーニング制度』のインターン生を受け入れ始めていただいたのも設立と同じ頃、それ以来ずっと派遣したラーニング生の指導にご尽力いただいております、ありがとうございます。新宿環境活動ネットと私の関わりはまだそれほど長くありませんが、2012年度ラーニング生の飯田さんには環境財団が企画するイベントの運営などすでに多方面でお世話になっており、感謝してもしきれません。これからも、『CSOラーニング制度』参加の学生共々、よろしくお祈り致します。



『CSOラーニング制度』とは

『CSOラーニング制度』は、環境問題や社会課題に取り組むNPO・NGO団体で、大学生・大学院生が8か月間の有給インターンシップができる制度です。ぜひこの制度を活用して、新宿環境活動ネットで活動してみませんか？

●Webサイト：www.sjnkef.org/cso/cso.html



「OB・OG会」開催レポート

2015年度から年1回、「OB・OG会」を開催しています。

OB・OG、現役生と職員、関係者などが集い、近況報告や情報交換などを通じて懇親を深めています。同じ場所で共通の活動を経験した世代を越えたつながりは、タテとヨコに広がる貴重なネットワークです。

第1回 2015年6月20日(土)
@エコギャラリー新宿



第2回 2016年7月2日(土)
@エコギャラリー新宿



第3回 2017年6月18日(日)
@エコギャラリー新宿



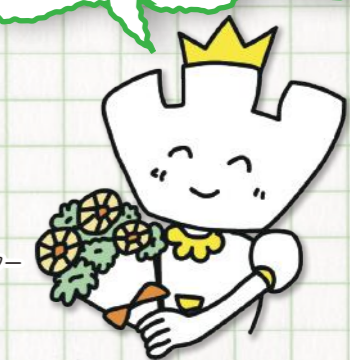
第4回 2018年7月15日(日)
@エコギャラリー新宿



番外編 「元・館長 御所窪さんを囲む会」
2017年3月17日(金)
@新宿近隣のレストラン



これからも、毎年6～7月に開催していきます。当時の思い出話を肴に語り合えることを、楽しみにしています！



エコギャラリー
イメージキャラクター
エコ王子

HISTORY

HISTORY — 新宿環境活動ネット15年間の軌跡 —

2003年にNPO法人化してから15年、多くのユースが運営に参画しながら活動を広げてきました。持続可能な社会づくりに向けて、新宿環境活動ネットはこれからも“連携”と“協働”をキーワードに、ユースとともに新宿発の環境教育・環境活動の取り組みを進めていきます。



2006年 「エコ王子」誕生



エコギャラリー新宿の公式キャラクターとして定着している「エコ王子」。実は、2006年度CSOラーニング生の酒井 智子さんが考案したものです。今では新宿中央公園内に木製モニュメントが完成するなど、環境都市・新宿のシンボルとして親しまれています！

2009年 「エコギャラリー新宿」 5周年



エコギャラリー新宿発のヒーロー・新宿エコレンジャーや新宿区役所つづじ連による阿波踊り、手話コーラスなどのパフォーマンスで、開館5周年を盛大にお祝いしました！



2014年 「エコギャラリー新宿」 10周年



10周年記念誌『エコギャラリー新宿 10年のあゆみ—文化の薫り高い環境都市・新宿をめざして—』を発行。記念ロゴは、当時アルバイトをしていた木明 拓椰さんが手がけました！



「エコギャラリー新宿」15周年

2004年 「エコギャラリー新宿」開館



2003年に公の施設を民間事業者が運営する「指定管理者制度」が始まり、名乗りを上げました。新宿区からの選定を受け、エコギャラリー新宿の運営を担うことに。環境学習施設としては、全国初の事例でした。ここから、試行錯誤しながら前例のないチャレンジがスタートしました。

2011

2011年 第10回『まちの先生見本市！』



毎年1回開催している『まちの先生見本市！』も、10回目を迎えました。今では新宿区教育委員会とも連携し、新宿を代表する教育支援ネットワークになっています。この事業を通じて培ったつながりやノウハウは、新宿環境活動ネットの貴重な財産です。

2015年 「OB・OG会」始動



この年から「OB・OG会」がスタートし、毎年定期開催するようになりました。近年では、環境財団の方など関係者もお招きし、新年度の新たなCSOラーニング生を歓迎する場にもなっています。

2003 ●「NPO法人新宿環境活動ネット」設立

2002 ●「新宿の環境学習応援団」プロジェクト始動

2001 ●「新宿環境情報ネットワーク」発足



まとめにかえて

15周年を迎えられたこと、皆様のご尽力に感謝するとともに、自分もその歴史に携わることができ、大変嬉しく思います。エコギャラリー新宿では、常勤職員やベテランスタッフのほかにも、CSOラーニング生、学生アルバイト、そしてその方からご紹介いただいた後輩など…メンバーが入れ替わりつつも、継続してユースの方々に携わっていただきました。イベントの提案や企画運営、広報物のデザインなど、日々の重要な業務でご活躍いただいています。単純なアルバイトとしてではなく、気兼ねなく意見を言える環境があり、しっかりとした役割を任せられることで達成感や充実感を得ることができることが、卒業後も大きなイベントごとに懐かしい面々が駆けつけてくださることにつながっているのかと存じます。かく言う私も学生だった2004年から微力ながらお手伝いを始め、こういった歴史を感じながら現在に至ります。この15年は、NPOや環境教育専業の15年であるとともに、若い力を含めた人のつながりと情熱の歴史でもあると実感しています。



NPO法人新宿環境活動ネット 理事 武雄一郎